



兵局宛付

軍船葛城。六。司

宇田川村三郎

東京都

宇田川新太郎様

郵便

検閲済



拝啓

暫らくは仰無沙汰新 ましたか
 其の後お喜びもななく仰一同益々仰健康
 にて決戦の秋に際して増産戦士と
 仰奮斗の意と存し、諫に心強く思います
 私も相変らず、至極元健身心共に上々の
 コンディション、必ず頑張ります、見せませう
 皆様も向寒く春に際して、先分仰自善友な
 さいます、愈々仰奮斗の程を、
 付きます、では諫、現心緒の至り、ですが松の
 野人金より二日月ばかり大至急、皆に組んで
 戦友であり先輩の許へ仰送り下さる、別
 此れやうな使の通もあいのぞ、一寸目的も

有りますので、而して必ず、日向橋に仰心配を
 掛けらるやうな事は、折々其の久は、仰安
 心下さい
 戦も愈々熾烈の度を加へておられ、私も私共
 何時若梅とて、護国の鬼と仰す、やうは、其の
 時こそ、日向橋の子として、弟と仰す、とて、立派
 前、りた、いと、一平、素より、念心、致し、て、おられ、ま
 たが、また、こ、う、言ふ、や、う、な、事、も、考へ、入、る、時、が、あ、り、ま、す
 男と生れ、軍人となり、大決戦を戦、抜くことは
 男と、し、た、の、上、も、な、る、で、あ、る、が、一、定、の、年、齢、に
 達したならば、人の行ふべき事、も、行、な、さ、ぬ、ゆ、え
 た、と、田、心、は、な、る、も、お、り、ま、す、之、れ、戦、友、は、家、へ、手、紙、で
 妻を請、ね、した、と、か、言、て、お、り、ま、す、が、戦、局、よ、り

見て現在の状況では其のやうな余祐の有る
 時期ではなからんと思ひますが私も時々誘惑心されて
 ても云いますから種々の事を考へさせられます
 必ず思の後に取めて行へる事が断言できれば
 何にも考へずに其の日の其の目を中心実に送て
 行けばよいのですが萬が一生存した時の事
 も思ふと事々を將來の事を考へさせられるので
 す「馬鹿が我々はなにも考へる事は無い唯米英
 撃滅あるのみだ此れも事々を考へるのならもつと
 もつと自分の職業に励まなければいけないまた
 緊張がたりないのだと自分を自分で鞭撻する
 のですつまりなにも考へる事なきやうに私共も益々
 職務に邁進しなすやうに仍敵米英撃滅

に全力を注いで行きます人々の處も自分の向
 家へも歸へれないでせう呉々も此の様お作
 したのしに而し両親もお願ひします

二 由

金は十月十五の項に由えやうに引かれ
 ば好都合です此の由紙が備わたりすべく思
 ひも安全で早い方法を以て發送して下さる
 尚發送と同様に解へもせせて下さる

送先北名

廣島縣

三 吉計馬様方

宇田川社三郎

右仰り願ひします

吳局気附軍船葛城の六・司

宇田川社三郎

X

軍部

武部

字田川新太郎

東京部

字田川新太郎



前書

何時の如く印番河法教にてありまゝとて

車御座相りまゝとて

此の如く相敷らざるにあまの者でゆゑとのこ

お勵げのこゝろを志すに致しめたるありまゝとて

私におかげで至極元氣を得た分は道徳

致しおれりまゝとすからゆゑ心の程を

是れは珍なりいふをゆゑ道徳のこゝろと

諒り相難たりゆゑのこゝろと

何時の如く表化のふいふ食取らば一は珍なり

なきを感ずるにあらざりては同信の如く大書は信が

のこゝろと

何時の如くは人々同書は依りまゝとて

此の如くゆゑに道徳致しませぬが致し

此の如くゆゑに道徳致しませぬが致し

之の同部使物の差出をとおかえを
下すいさす也。而、預いれぬま
岩村まの左様。而、新せ置き下すいさす也。
重なり。而、預は止まらぬ。
時、首、柄、此、竹、而、白、髪、ま、ま、

此、ま、ま、
此、ま、ま、

、原、田、川、水、部、柄

東京市

宇田川新太郎様

軍事郵便



織
軍部武務
宇田川新太郎

西子紙有難く何身なり

あまりふく松考らざるお元氣でお是念し
事と推察新て丹りあり

松も体の具合は大考良くふりあり
年頃安神下き以時最初は敏忙の事
思ひます

呉々も松の事には心配あり

必ず良くとつて皆存はし期待に沿ふ

やうに新しき事から

皆存もお許し印に各自養ふ事あり

益々家事に専念致されん事と切望

しつやまめ

学々

東京都

宇田川新吉郎様

相澤良吉様方
宇田川新吉郎

拝啓

先日は種々有難おうゆを居ました

頂かた珍悪く外出ができません面會する

事がお出来ず残念でいた

此のふの元氣な顔が見たのらた人う日は海

軍記念日以下宿へ帰りきました

下宿の人達より園がばゆ向親より内山の

足が来て下さつたそうですお誠しく失禮

いたしました尚種々即也馳様でございます玉子は下

宿人半分割けやりました下宿が即也馳

になつたそうですが私からもお禮を言ひ

下さいますたから家からも一通お禮を言ひ

下さります

お中業もあと二ヶ月となりました

之が果が頭張ります

先は即禮迄

早々

社三郎

東京都

宇田川新太郎様

軍事郵便

検閲済



横須賀局氣付 于九参

板野所

宇田川新太郎

相見

御手紙有難々う

皆様お喜びもなしく益々仰健勝よしお養育の由
諺に同慶のふとす

皆様も御聖なる御土上室に敵機もまみしく

戦意愈々曹揚し一意増産に邁進のりと思ひ

ます内地の寒室に米魁の毒牙にかけられお家

の危難に拘せられたるく違に對しは諺に仰衆の

毒ぞす米魁いまた見ろの急業ごみでお互に

頤張りぬくのが現下の我々の急務ですおまごめ

私もこの急業ごみで勤務強めております故どうか

仰心配なく毎日玉極を第弔で張つてお祈りませう

先日の手紙も相見されて種々お考へになられたそ

うですお別にさう意味のあふものでお祈りませう

唯友此日稱は私かつまらなかり遊びでもいへば子と
でも思つて居るかも知れませぬが決して此れを人に
仰心配をわけするやうな事にはして居りませぬ
私も年が年でございますから此れを中種々心配して之れ
を居られるものと申します。が兎角勤族としての
是に於てはほの紀に従つて自分の力量が如何に
進んで行きますか其の他の生活上に於ては一切
父母及足之人におまかせ致します
而し私も生て丹を以上者望もありませんが
ますすが松達には自由にならざる時はほの紀に丹を以上
いつになつても望むと思ひます
種々お話したい事も有りますが此れは別の由推
察にまかせます
貴分此れをまのにお願ひと見ゆるもなかりと思ひます

が私に話 たいする園 かせたい あり
きり たい 減 ぞい しまか せて 下 さい
では 時 節 物 師 作 ち 中 に

二 傳

語 古

くう な 強 利 的 に 物 達 の 俸 給 を 家 族 派 に
さ 小 き た か 一 月 分 の 俸 給 ぶ り 家 族 の 方 へ
流 さ れ る と 思 い ます が 受 取 て あり て あり さい
し ず 小 横 領 が 皇 海 軍 統 理 部 ぶ り 中 達 知 が
あ る る ぞい せう

北 三 郎

字 中 野 村 中 郎 殿

東京市

宇田川新太郎様

東京郵便



紙

筆紙

武松

宇田川新太郎

奇略

朝日らへて無立口致しませしに
予兩親ほしめ予一読存益之申北連
よみて其意の事、主と系致しして
予極之致で軍務に暇して
予故念ふべき

はきまりてね過般、私のゆり七話に
ふつた長崎の律右と
よりなと便等を取す、尚
あなは種々と申配慮し預
りませた方なのですが
走口の便りに是非、私の生家
事を知せて呉れしとの便り
がありませ、たうで
念せし置き、よした別
は心配りして交際する人
ではふふと思つたりす
たす近しい実し感、心
あはばさくです
走口の便りにも、あな
た方の事を思ふと有難
うと、如可してしよつ
か判、くふくたうので
走口も海軍へ、小遣
を獻納させて取き、り
たと云ふ感、心あは
さくです、家からも申
せし、ま、あな致し
がら申控、身々、申
報申、伺ひ致し、て
おん、て下す、い

走方住持

長崎縣長崎市常盤町四番地

福岡定合杉下四郎杉三力

津谷たの様宛

では時、長崎申、作、を、大、申、は、若、自、の、務、は、遠、道、致、し、ま、
そよと

二律

走口の便り、て、お、申、致、し、て、お、申、す、り、た、が、字、号、が、届、き、
ま、り、た、う、一、枚、宛、送、り、て、下、さ、い、申、致、し、ま、す

一紙三印

宛一同様

封

横須賀局宛付
三九三
林野崎

宇田川北三三

東京都

宇田川兼吉様

軍事郵便

検閲済

相見

御返信有難たり御座居ました

今夜は寝つた事はありませんかたとえ

どんな事が有つても取乱すやうな事はふいと
思いませんが我々の戦友が敵の攻殺手を受け大切
なる自艦が波没に瀕せんとしたる時自己の全力を
盡し善策を施したる後笑うて死んで行くと其
の次女こそ難関に處するは日様の心とすべきこと
と思ひます今や既に軍も官民もななく皇民
一体皇國の護持敵撃殺に心血を注ぐのみが
現下の我々に與へられたる唯一の道です
家門と思ふ時ではない家族を愛する時では

ない各自くが護國の鬼となり米人をかみ殺
しけり殺し撲殺すのだ戦局愈々危急の秋幸
私も至極頑健で張切て居ります皆さくも益々
時の来るまではお体を大切に善策を盡し備
へに克璧を期して下さい

お返事によりますと私に就て種々御心配
して下さつて居られるやうですが諸事多急繁
の折に私事に於てまご心配を掛けて申訳
有りませく尚返信の趣によりますと私に心寄
りの者でもあるやうに思はれて居りますか
私にはそんなものはありません若しあつたに
しても私がそれと約束なぞする弟でせうか
決してありません

先日差上げた手紙に書いた通です失禮ながら
もう一夜よく読んで頂きたいと思ひます
そして適者なるものをきめて下さる種々書きたいこと
もありますがまた次回にゆきます兄さんより
の便を頂き非常に嬉しく思ひます時々
お返事をあ願ひします
呉々もお作を大切に

弟々

弟々

兄上殿